



令和 6 年 11 月 5 日

京都市長 様

京都市伏見区中島鳥羽離宮町 2 番地

日本リグランド株式会社

代表取締役社長 西田亮太

旧総合資料館敷地暫定活用事業に係るまちづくり条例に基づく開発構想に関する意見書につきまして、下記の通り見解を申し上げます。

記

| 意見の概要   | 意見に対する見解   |
|---|--|
| <p>(再説明について)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・9月29日（日）に開かれました説明会では、質問が一人一回に限られましたので大変不十分な回答が京都府やリグランド社からあっても、そのままになってしましました。きちんと、意見のやり取りができる話し合いの場が必要です。第2回目の会合をお願いします。</li><li>・今回の説明会で終わるのではなく、再度開いてほしい。</li><li>・説明会をこれ限りとせず、再度開催し、住民の声をもっと聴いてほしい。</li><li>・8年後、本格利用後の在り方についても、きちんと地域住民の意見を聞く機会を持ってほしい。</li><li>・8年後の本格利用についても、住民の意見を聞く機会（タウンミーティングなど）を持ってほしい。</li></ul> | <p>・説明会などの開催につきましては、引き続きまちづくり条例の手続に則り、対応いたします。また、当社で実施する暫定活用事業以外についてのご意見は、お答えできる立場にございません。</p>                             |
| <p>(管理体制について)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・夜間の管理方法に対する回答があいまいなままになっています。夜には管理人は常駐するのでしょうか？それとも完全に出入りできないようにするのでしょうか？公園と言いましたが、公園ならば商業施設も要りません。公園なのかどうかも分かりませんでした。出入り口は、またげるような「チェーン」にして駐車場からも常に出</li></ul>  | <p>・夜間などの防犯体制として、管理者は現地滞在しませんが、立入禁止区域を明確にする掲示するほか、防犯カメラや緊急時等には警備員が駆け付けるなど警備会社のセキュリティシステムを設置し、地元警察とも連携しながら安全な管理運営を図ります。</p> |

|   |   |
|---|---|
| <p>入り自由とも回答がありました。結局どうするのか回答はいつあるのでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この土地の管理体制についての説明がありましたが、昼間も含めてですが、特に夜間の管理については疑問を感じました。夜間は出入口を鎖などでブロックするということでしたが、鎖やブロックを置くだけでは、飛び越えて侵入することが可能となり、夜間の防犯上大変不安です。大勢で侵入してたむろする、騒音をたてる、通行する人を引き入れて暴行するなどの犯罪が発生するのではないかと心配です。出入口はしっかり施錠できる門や扉で閉鎖されるようにすること、一帯を管理する人が常駐していること、駐車場側の出入り口もしっかり閉じられること、そのために防災施設への出入りが夜間できなくなるのであれば、防災施設の出入口を通路側の位置に変えることを望みます。</li> <li>施設の管理について責任の所在が明確でない。夜間の施錠や安全対策もはっきりしていないのでとても心配です。</li> <li>この開発地の管理については不明な点が多いです。夜も管理者は現地に滞在されるのでしょうか？その場合は、どの場所に滞在されるのでしょうか？</li> <li>この開発地の利用時間は何時ですか？夜は施錠されるのでしょうか？駐車場は 24 時間利用ということでしたが、住宅展示場があるこの地との関係はどうなるのですか？</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生などの非常時に来園者や地域の方々が防災施設を昼夜間わず使用できるよう管理運営を検討します。</li> <li>・施設の管理運営の責任は日本リグランド株式会社となります。</li> <li>・閉園後の夜間について管理者は現地滞在しませんが、警備会社のセキュリティシステムを設置し、地元警察とも連携しながら安全な管理運営を図ります。</li> <li>・開園時間については周辺他施設の営業時間等を踏まえて検討いたします。なお、閉園後の夜間などは施錠やセキュリティシステム導入などにより管理運営を図ります。</li> </ul> |
| <p>(敷地内の植物、植栽について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該敷地に生えている植物は伐採しないで残してほしい。SDGs の叫ばれている時代にせっかく生えている樹木を伐採することは全く時代に逆行する行動です。樹木により植物園周辺の温度が抑えられ、気候変動の進行を抑えられています。ここまで残されている樹木を引き続き残していくように、建設する建物の配置などを工夫していただきたい。これは旧総合資料館跡地暫定利用期間</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本敷地内の樹木につきましては、緑地を確保し、地域の皆様とともに緑や花を育てていけるような空間を創出できるよう検討を進めております。新たな植栽も見守っていただけますと幸いです。</li> </ul>  |

の後も緑豊かな地域にすると京都府の計画にも述べられていることであり、樹木を伐採してはこの方針に反し社会的に責められることとなります。

- ・北東部に残された樹々は残してほしい。
- ・敷地にあった樹々は半分以上が切り払われてしましましたが、北東部分に残されている樹木は残してほしい。地球温暖化、SDGsを考えると、樹木は残すべきです。
- ・計画が都市緑地の気象環境劣化をもたらす点について、人間は自然にはたらきかけて農地や都市を造り、暮らしを豊かにしてきました。けれども、こうした開発行為は、生態系による気象緩和効果、水害・土砂災害防止効果を必然的に低下させます。したがって、人間社会の発展のためにやむを得ない行為であるとしても、常に、その生態系による環境保全効果を評価し、計画に当たって慎重なアセスメントを要することは言うまでもありません。さて、当該地域を含む北大路通、下鴨中通、北山通、賀茂川に囲まれた京都府所有地は、植物園、京都府立大学農場として利用され、長く都市内緑地の環境保全効果を発揮してきました。しかしながら、2017年開館した歴彩館建設によって農場の大半が破壊され、緑地面積は大幅に減少し、その環境保全効果を圧迫する事態となりました。緑地は、建物や道路よりも蒸発量が多い特徴があり、日射の大半を気化熱として消費して大気加熱を加え、気温を下げます。ただ都市の中の小面積緑地では、広い範囲に効果を及ぼすとまではいえません。建物と緑地がモザイク状に分布するのがベストなのですが、私は、緑地面積が広いほど効果が大きくなることを強調し、また緑地を増やすのか、建物を増やすのか、その選択の方向性に注目したいと思います。これによって、都市計画が環境保全に十分な配慮を行っているか否かが分かれます。したがいまして、建物をさらに増やすことを含む計画は妥当でなく、当該資料館跡地は、歴彩館によって失われた府立大学農場破壊の代償として全面的に緑地として利用するべきです。私は、

|  |   |
|--|---|
| <p>樹木を中心とする植物を植栽し、植物園に続く緑地として当該地を利用することを要求したいと存じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場の規模を縮小し、植物を植えて頂くことはできないでしょうか？貸庭園・農園のような形で、来場者が一定期間手入れすることなども含めてご検討いただけないものかと考えます。</li> </ul>  |   |
| <p>(敷石について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧総合資料館の前に敷き詰められていた元の京都市電の敷石は、市電時代の京都の街並みを遺す貴重な遺産です。説明会では老朽化しているので、再利用はできないという回答でしたが、敷石に再利用するものではなくても、市電遺構と表示して展示するとか、希望者への譲渡も含め利用法を再考していただきたい。京都市内では旧三条大橋や五条大橋の橋げた石があちこちにのこされていて、府立植物園の中にも現存しています。再検討してなんとか残せるようにしていただきたいと思います。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地内の京都市電の敷石につきましては、事業に支障の出ない範囲で譲渡できるよう対応します。</li> </ul>   |
| <p>(建物利用について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年異常な猛暑で、夏に子どもたちが遊んだり学べる施設がなく親も子も困っている。京都市内北部に、雨や猛暑でも子育て層が利用できる施設を作ってほしい。</li> <li>・子供が遊んだり、学習したりできる施設を作ってほしい。特に京都市北部には雨天でも遊べる施設が少ないので、有料でもよいので子育て層が利用できる施設を作ってほしい。</li> <li>・葵学区では公民館など地域住民が地域の自治活動のために利用できる施設（例えは町内会の会議や子供会の催しなど）がなく、困っている。地域住民が地域のために利用できる施設を作ってほしい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが楽しく遊べるような遊具の導入や子ども連れの方々が気軽に入りやすい飲食店を計画しております。</li> <li>・スタジオコンテナゾーンを設置し、京都の文化及び他地域、他国も含めた異文化交流のほか、生け花や植物について身近に感じることで学習につながるスポット的なイベントを行える場を目指しております。</li> <li>・地域の皆様にもご使用いただけるようなスペースとなるよう考えており、幅広い世代の方にお立ち寄りいただけるような憩いの場となるよう検討しております。</li> </ul> |
| <p>(ドッグランについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドッグランはこの場所にはふさわしくありません。別の場所に作ってほしい。子供や高齢者、障がい者が多く通行するこの場所には、やめてください</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本施設は、「文化と憩いに彩られたライフスタイルを提案する住宅公園」として住宅展示をはじめ多様なライフスタイルをご提案できる場所を目指</li> </ul>   |

|  |   |
|--|---|
| さい。  | しております、ドッグランはペットをお連れの方などにもご満足いただける施設を目指しています。設置や運営に当たっては、お子様やご高齢者様、障がいのある方に対しても十分な配慮となるように検討を進めて参ります。     |
| (駐車場について)<br><br>・本計画が作り出す交通量・人流は、年月をかけてこの付近に築かれた静かな環境を、暫定利用としながら大きく変え、その後の土地利用を含めた環境にとってマイナス要因となるのではないかと心配しております。確かに公共交通機関では、大きなサイズの犬を連れては来れず、小さい子供連れでモデルハウスを楽しみに来るには車が便利でしょうが、住民が築いてきた環境に対する御社のご配慮をお伺いしたいと思う次第です。100台規模の駐車場とされていますが、本利用計画にこれが適切な規模だとお考えになった根拠（計算式）を開示いただけないでしょうか。  | ・限られた敷地の中で施設利用者や従業員等の利用などを想定し、施設に必要な駐車場として計画しております。なお、来場が多くなるイベント時などには、交通整理等を行い近隣の皆様にご迷惑とならないよう取り組んで参ります。 |
| (その他、暫定活用事業とは異なるご意見)<br><br>・来年度以降に、南側の京都市コンサートホールは修繕工事がなされるようですが、府立大学から北に行き来するプロムナードのルートはどうなるのでしょうか？<br><br>・本格活用の在り方については、舞台芸術に限らず、植物園の拡張も含めて根本的なところから話し合いを持ってほしいと思います。京都市京都府ともに検討ください。<br><br>・2017年開館した歴彩館建設を含む計画が都市緑地の気象環境劣化をもたらすのではないか。<br><br>・植物園の拡張を願っています。近くには前身校出身者からノーベル賞受賞者2名を出した（日本では他ないこと）洛北高校（現中高一貫）が、南に下がると旧湯川博士邸（現在のところ市民公開はされていないが）もあり、散策ルートとともに得る地域一帯です。<br><br>・未来の世代に負担を増やす点について、戦後の経済の高度成長が一段落して以降、私たちの社会は、持続的で安心できる社会を未来に残すべく努 | ・当社で実施する暫定活用事業以外についてのご意見は、お答えできる立場にございません。  |

力しなければならない、そういう成熟期に達しております。また、経済高度成長に支えてきた、上下水道、道路、防災設備、公共施設などの「社会的共通資本」（「コモンズ」とも表現されます）は数十年の年月を経て劣化し、修繕をしながらこれを維持してゆくことが求められるはずです。また、子ども食堂・大人食堂など、本来行政が行うべき公的支援を善意の方々が肩代わりしているような極度の貧困、あるいは、能登半島にみられる度重なる地域の崩壊につながるような自然災害に私たちちは直面しています。いつ自分自身がこうした絶望的な窮状に陥るか分からないような不安が広がっているといえ、まずは、自然資源、人的資源を最も支援が必要な方々に重点的に配分する必要性が高まっております。だとすれば、京都府京都市に限らず、行政の力点は、限られた予算を次世代に負担を与え続けるインフラの新設から、次世代の負担を抑えるインフラの維持など、これまでとは異なる方向に転換してゆく必要があります。この観点から、北山整備計画全体が、明らかに、未来の世代に負担を増やす「ハコモノ」中心の考え方へ偏っており、安心できる社会の持続性を図る精神に逆行する、時代遅れの発想に基づいていると言わざるを得ません。

以上